

令和4年度地方創生推進交付金事業評価・外部評価結果について

1. 外部評価の目的

市で実施した内部評価の妥当性を、専門的な見地や市民の目線から検証することで、客観性を確保するとともに、必要に応じて総合戦略の見直しや次年度の取組み内容への反映を行う。

2. 評価対象及び実施方法

令和4年度に実施した地方創生推進交付金事業「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業」及び「地域活性・交流ハブ拠点化事業」について、市で実施した内部評価に対し、河内長野市行財政評価委員会において外部評価を行った。

3. 評価方法

市内部で行った評価資料に基づき、事業の目標及び数値目標（KPI）を達成するために評価年度に実施した要素事業が効果的であったかとの観点で検証を行い、「**妥当**」、「**概ね妥当**」、「**要検討**」のいずれかに分類する。

4. 評価結果

別紙「令和4年度地方創生推進交付金事業評価・外部評価結果」のとおり

令和4年度地方創生推進交付金事業評価・外部評価結果

■事業の概要

事業名称	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業
事業の目標	<p>人口減少・少子高齢化が急激に進む開発団地が連なる河内長野市南部において、それらの玄関口に位置する南花台を、周辺開発団地の生活を補完できるまちとして「丘の生活拠点」に位置付け、平成26年度より、「地域住民が住み慣れた場所で多世代と交流しながら、生きがいをもち、元気に暮らし続けることができるまちづくり」をコンセプトに『咲く南花台プロジェクト』を推進している。</p> <p>その間、地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心に、買物応援や生活応援をはじめ、健康づくり、子育て支援、情報発信、南花台事業者の会の立ち上げなど、地域住民主体による地域課題解決につながる取組みを着実に実施してきた。</p> <p>こうした取組みを通じて、現在では多くの地域住民が多様な形でまちづくりに参画し、関西大学に加え他大学の参画も進むとともに、地域のスーパーコノミヤとの連携も年を追うごとに深まる中で、公民学によるお互いの信頼関係が高まり、地域の合意形成が図りやすくなるとともに、まちづくりの機運が非常に高まっている。</p> <p>「咲く南花台プロジェクト」をさらに推進し、自動運転による移動サービスを始め、新たな技術の導入による生活利便性の向上を図りながら、地域の公園やUR団地集約用地等の既存ストックを有効活用し、地域の魅力創出・活性化を図り、「暮らし続けられるまち」を形成しながら、高齢化に伴い自治会や地区福祉委員会など地域活動の担い手不足が課題となっているなかで、新たな担い手を発掘し、地域住民と事業者が連携した持続可能なまちづくりのモデルを構築する。</p>
全体の概要	<p>地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心とした社会実験的活動の企画・実施及び活動の一環として、自動運転等未来技術を活用した地域の生活に機能する移動支援の構築を図る。また、UR集約型団地再生事業に係る多世代が交流できる公園（サッカースタジアムを含む）を整備することにより、地域住民の憩いの場や子どもの遊び場の創出、スポーツを通じた魅力あるまちづくりのモデルを構築する。あわせて、これらの事業について他の地域へ横展開を図り、河内長野市全体の地域活性化を生活利便性の向上につなげる。</p>
要素事業	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業
令和4年度実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・提案事業総合企画調整 ・「総合研究会」など各プロジェクト会議の運営 ・地域活動拠点「コノミヤテラス」の運営及び自立化の推進 ・南花台モビリティ「クルクル」の取り組み推進 ・「咲く南花台プロジェクト横展開」としてイズミヤ河内長野店における地域活動拠点の運営推進 ・南花台モビリティ「クルクル」自動運転実証事業運行延伸 ・UR集約事業におけるサッカーチームと連携したまちづくりの推進 ・「コノテラ通信」発行など地域による情報発信 ・南花台ブランディング事業（ブランドロゴ・メッセージ制作）

■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
①非常に効果的であった	<p>令和元年度に開始した南花台モビリティ「クルクル」については、コロナ禍でも利用者を延ばし、地域内移動支援としての効果を発揮できた。</p> <p>地域活動拠点である「コノミヤテラス」についても、コロナ禍の収束を見据えて地域活動を再開していき、地域住民主催の習い事などが再開された。</p> <p>また、UR集約跡地におけるサッカースタジアムを含む公園整備検討にあたり、地域住民代表や建築・ランドスケープ・ジェンダーなどの学識経験者で構成されたUR団地集約跡地活用に係る推進委員会を立ち上げ、公園整備における整備方針等を示した基本計画を策定するとともに、令和5年度に実施する設計業務の委託事業者の選定を行いながら、設計段階から地域の意見を幅広く集約することを目的とし、地域向けの公園整備に関するアンケート、住民説明会、ワークショップ等を開催した。</p> <p>あわせて、これまでの取り組みの広がりを受けて、交通不便地での電動カートをを用いた地域住民主体の運行が開始し、河内長野駅前前のイズミヤ4階における「イズミヤゆいテラス」も順調に利用者を伸ばすなど、事業の横展開も図ることができた。</p>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
①妥当	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業であることを、他の地域にどのように応用できるか、市民に納得・説得できる位置づけが必要。 ・コロナ禍における代理指標を導入すべきだったのでは。 ・KPIだけ見ると、あまり成績が良いように見えない。市民への発信が必要。 ・河内長野市民全体に対する取組の啓蒙があまりされていないのでは。 ・コロナ禍の影響もあり、実績値が1年遅れで出てきていることを踏まえると、評価は妥当であると感じる。
評価内訳	
①妥当 3 ②概ね妥当 1 ③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

令和4年度地方創生推進交付金事業評価・外部評価結果

■事業の概要

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業
事業の目標	<p>大阪南東部に位置する河内長野市は、都市部に近いにも関わらず、豊かな自然に囲まれ、多くの緑やきれいな水に恵まれた地域である。「ちかくて、ふかい奥河内」をキャッチフレーズに推進してきたイメージ戦略が一定の広がりを見せ、近年の観光入込客数の増加につながっている。</p> <p>また、「中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～」、「女人高野～女性とともに今に息づく女人高野～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～」と「葛城修験～里人とともに守り伝える修験道はじまりの地～」の3つの「日本遺産」に認定され、それらを観光プロモーション等に活用している。</p> <p>さらに、コロナ禍の影響により、人々の働き方や居住地選択に変化が生じており、大阪市中心部から電車で30分程度の距離でありながら、豊かな自然を有する本市への関心が高まっている。</p> <p>本市の観光ハブ拠点として位置付けている道の駅「奥河内くろまろの郷」の周辺エリアには、JA大阪南農産物直売所「あすかてくるで」、林業総合センター「木根館」、府立花の文化園が併設され、エリア全体で観光誘客に取り組んでいる。</p> <p>これらのことから、本市最大の集客エリアである道の駅「奥河内くろまろの郷」を中核として、観光客・交流人口の増加を、地域内産業の活性化に結びつけ、商業、また地域資源である農業・林業の振興をめざす。また、本市が持つ豊かな自然、歴史・文化などまちの魅力を発掘・創出し、市民のまちへの愛着や誇りを育むとともに、市への良好なイメージの定着を進め、新規移住者の受け入れ体制の整備等を推進することにより、交流人口の拡大を定住人口の増加につなげ、にぎわいや活力に満ちたまちの創造をめざす。</p>
全体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・農業、林業において、地域資源を活かしたブランド化を確立し、販路拡大につなげるとともに、磨きあげた資源を有機的に結び付け、さらなる市内循環を生み出すことで、地域内経済の活性化及び雇用の創出につなげる。 ・子育て世代が住みよいまちとするために、本市最大の集客施設である道の駅の「子育て応援」機能強化を行い、子育て世代に対応した地域活性・交流拠点整備を進める。(令和4・5年度事業) <p>また、子育て世代を中心とした定住人口の確保を目的に、本市の良好なイメージの拡大を図るため、観光客(訪日外国人を含む)に直接届く観光プロモーションに取り組む。</p> <p>さらに、ポストコロナ期においても、子育て世代を中心とした市民や観光客が安心して集客と消費を高めることができるよう、観光MaaSを活用した事業を実施する。(令和5年度事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これらの取組みを、広く市民にも発信し、市民の地域資源への理解向上を図ることにより、市へのまちへの愛着や誇りを育み、定住促進につなげる。
要素事業①	観光誘客促進事業
令和4年度実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・かわちながの観光マップの作成 <p>本市の観光の魅力(歴史・日本遺産・自然等)について観光客等に分かりやすく解説し、市域全体を案内する観光マップを作成した。多言語対応(英語、中国語(簡体字)の2言語)を行い、アフターコロナ期に向けたインバウンド集客に活用できるマップとした。</p>

■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
①非常に効果的であった	<p>完成したマップは、道の駅や河内長野市観光案内所の来訪者に、日本遺産ガイドブックやハイキングマップなどの観光テーマ別に作成した既存のパンフレットと組み合わせる観光案内を行い、市内周遊を促している。</p> <p>また、インバウンドを含むさらなる誘客促進を図るため、市内の主要観光施設だけでなく、大阪観光局と連携し、大阪市内の観光案内所にも配架を依頼した。併せて、河内長野市観光ポータルサイトなどにマップデータを掲載し、WEBでの情報発信も行っている。また、今後はイベント等においても配布し、国内外からの一層の観光誘客に向け、積極的に活用していく予定である。</p> <p>このように、本マップは、今後の観光情報発信事業の中核となる資料として活用が図られている。</p>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
①妥当	<ul style="list-style-type: none"> ・マップが有効であることは認めているが、観光客増加との因果関係の実証が必要。 ・ウェブの発信もしっかりやることで、相乗効果が期待される。 ・とても良いマップだと思う。 ・万博がチャンスと思う。
評価内訳	
①妥当 4 ②概ね妥当 0 ③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

要素事業②	木のある暮らし推進事業
令和4年度 実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・おおさか河内材活用事業補助金 地元木材である「おおさか河内材」のブランド化を確立し、林産品の利用促進につなげることで、地域資源である林業の活性化を図り、雇用の創出につなげるため、民間事業者等によるおおさか河内材を活用した建物の新築や改修のうち、おおさか河内材活用のモデル事例となり、その魅力を市内外に広く発信することができる取組みを選定し、補助金により支援することで、市として戦略的におおさか河内材の魅力を発信し、利用拡大につなげていく。 補助金額：おおさか河内材使用量（m³）×60千円～100千円（使用量による）

■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
①非常に効果的であった	<ul style="list-style-type: none"> ・「おおさか河内材」の活用支援を行ったことで、50m³を超える材の使用量の確保ができた。また、おおさか河内材の木材供給量は令和3年度と比較して大幅に増加しているが、本補助金により使用料が増加したことが一因と考えられる。 ・補助金事業により、市内住宅等の木質化の後押しすることができた。 ・木材の搬出に係る支援と併せて行うことにより、効果的に林業振興を図ることができた。

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
②概ね妥当	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の工務店の協力を得られるような仕組みにしてほしい。 ・市外に「河内材」というブランドを発信しても良いのでは。 ・市外の人へのコマースが必要 ・森林組合が河内材の販売から建築まですべて行い、地元工務店のライバル社となってしまっている。地元工務店との役割分担により、地域全体での協力体制ができるよう考えるべき。
評価内訳	
①妥当 0	
②概ね妥当 4	
③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

要素事業③	産地ブランド力向上事業
令和4年度 実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・改植、新植に係る苗木購入補助金 大阪府下有数の桃の産地である本市において、地元桃のブランド化を確立し、販路拡大等に繋げるとともに、道の駅において桃を活用した加工品の製造販売につなげるよう、市として戦略的に優良品種への改植・新植に対する支援を行う。 自立に向けては、JA、地元桃組合、道の駅、加工事業者等と連携を深め、桃の供給体制の強化や加工品製造販売等を通じ、補助金なくともブランド産品としての販路獲得を促す取り組みを進める。 2団体 12名 87本 77,485円

■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
②相当程度効果があった	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の実施により、地元桃のさらなるブランド化、販路拡大等に繋げるとともに、生産量の確保と産地の競争力の向上を図ることができた。 ・本事業の実施により、優良品種への改植・新植を促進し、直売所における品揃えの向上と、消費者ニーズに即した農産物の提供につながる事が期待される。 ・特定外来生物クビアカツヤカミキリに対する被害が顕著に増加傾向であり、その対策としても効果があった。

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
①妥当	<ul style="list-style-type: none"> ・苗木を渡すだけではなく、他の形での支援もできないか。 ・もっと事業費をかけても良いのでは。 ・今後の課題は後継者不足、新しい担い手を育てていくことが重要。 ・小山田の桃の評判はよく耳にする。
評価内訳	
①妥当 4	
②概ね妥当 0	
③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

要素事業④	世界かんがい施設遺産登録PR事業
令和4年度 実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 世界かんがい施設遺産登録PR事業 令和3年11月に世界かんがい施設遺産に登録されました寺ヶ池・寺ヶ池水路について、パネル、パンフレット、幟の作成を行い、記念事業である基調講演、展示会、特別展を開催し、広く市民に周知し、PRを行う。また、市民の安全確保を図るため、現地の危険な箇所に入り立ち入りを控える看板の作成を行う。

■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
②相当程度効果があった	<ul style="list-style-type: none"> 記念事業の基調講演、展示会、特別展を開催するために、パネル5枚、パンフレット4,000部を作成し、広く市民にPRすることができた。 市内小、中学校にパンフレットの作成について周知し、5校の小学4年生にはパンフレットを配布し、総合学習の授業で寺ヶ池・寺ヶ池水路の地域の学習教材として活用できた。

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
①妥当	<ul style="list-style-type: none"> 世界かんがい施設遺産も含め、沢山ある河内長野の良さを、もっと宣伝してほしい。 さらなる宣伝が必要。 評価は妥当。さらにPRが必要。 寺ヶ池周辺は綺麗になっており、評価は妥当である。
評価内訳	
①妥当 4 ②概ね妥当 0 ③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

要素事業⑤	自転車の駅整備事業
令和4年度 実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 電動サイクル充電機器の購入 コロナ禍において、密を避ける地域の身近なアウトドア環境での観光の取り組み強化を図るべく、子育て世代を中心としたサイクリストをターゲットとした市内周遊のネットワーク化を促進することを目的に、道の駅及び観光案内所に、施設来訪者が利用できる電動サイクル用充電器を設置した。また、道の駅のレンタサイクル備品を拡充した。 充電器 <ul style="list-style-type: none"> パナソニック (NKJ075Z) 2台 YAMAHA (X2P8210C) 2台 ※各施設に各1台ずつ配置 バッテリー <ul style="list-style-type: none"> パナソニック (NKY580B02) 5個

■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
②相当程度効果があった	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大をきっかけに、サイクリングやウォーキング、ハイキングなど、密を避けるアウトドアを楽しむ層が増加している。また、本市は起伏の多い地形であり、かつ市内を東西に結ぶ2次交通にも課題があることから、電動自転車を活用した観光周遊促進は、これらの課題解決に寄与していると考えられる。</p>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
①妥当	<ul style="list-style-type: none"> 「自転車のまち河内長野」で売り出してはどうか。 自転車の充実を維持していくことが重要。 河内長野は起伏が激しいので、電動自転車は必要である。 自転車で河内長野をまわるのは気持ちよい。応援している。
評価内訳	
①妥当 4 ②概ね妥当 0 ③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

要素事業⑥	道の駅「子育て応援」機能強化事業
令和4年度 実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅優先駐車スペースからトイレ棟への屋根設置に係る設計業務 ・地域の子育て世代を応援するとともに、子育て世代の道路利用者への休憩機能の補完を行うことを目的に、道の駅奥河内くろまろの郷の優先駐車スペース（障がい者・高齢者・妊婦など）から施設トイレ棟への経路上に設置する屋根の設計を行った。

■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
②相当程度効果があった	<p>優先駐車スペース（障がい者・高齢者・妊婦など）から施設への屋根の設置を行うことは、KPIとして設定している「道の駅奥河内くろまろの郷の年間売上高」の増加、「『子育てのしやすさ』に関する市民満足度」及び「社会動態の転入者/転出者の率」の向上に寄与するものとする。</p> <p>令和4年度の事業においては、耐久性や安全面を考慮するとともに、施設の外観イメージに調和するよう屋根の仕様を検討した。</p>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
①妥当	<p style="text-align: center;"><全会一致で妥当></p>
評価内訳	
①妥当 4 ②概ね妥当 0 ③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」